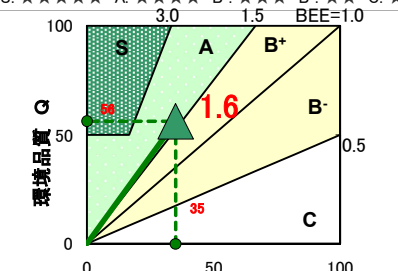
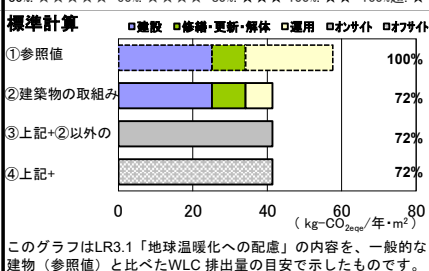
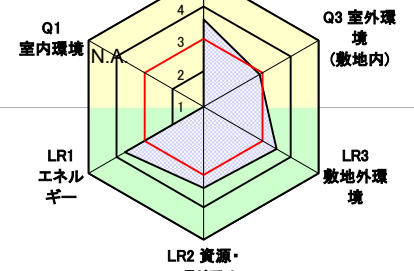


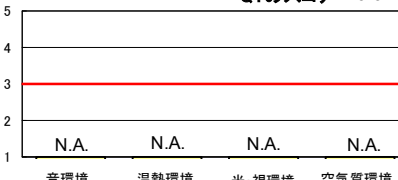
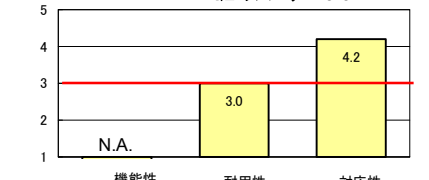
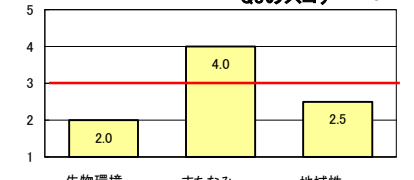
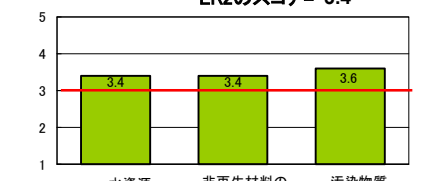
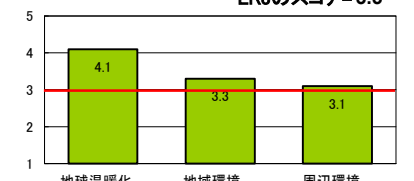
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Marq 東名厚木	階数	地上4F
建設地	神奈川県厚木市酒井3316番1 外205筆	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2026年3月16日
敷地面積	37,473 m ²	作成者	齋藤 一浩
建築面積	22,235 m ²	確認日	2026年5月22日
延床面積	83,790 m ²	確認者	北川 久芳

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ BEE=1.0 	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ (kg-CO₂eq/年・m²) 	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境 (敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境 

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア= 0.0	Q2のスコア= 3.6	Q3のスコア= 2.9
		
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.7	LR2のスコア= 3.4	LR3のスコア= 3.5
		
建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	水資源 非再生材料の 汚染物質	地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 階高:3.9m以上。 [壁長さ比率] <0.1 床荷重: 15000N/m ²	Q3 室外環境 (敷地内) 周辺環境との調和を図っている。
LR1 エネルギー BEIm=0.31	LR2 資源・マテリアル LGS使用している。 化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材 種別が3つある。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。 「光害対策ガイドライン」の項目の一部を満たす。また、 「広告物照明の扱い」の項目の過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■ 評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
Marq 東名厚木

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		竣工段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音	-	-	-	-	-	-
1.2.1 開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-
1.2.2 界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御	-	-	-	-	-	-
2.1.1 室温	-	-	-	-	-	-
2.1.2 外皮性能	-	-	-	-	-	-
2.1.3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用	-	-	-	-	-	-
3.1.1 昼光率	-	-	-	-	-	-
3.1.2 方位別開口	-	-	-	-	-	-
3.1.3 昼光利用設備	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策	-	-	-	-	-	-
3.2.1 昼光制御	-	-	-	-	-	-
3.3 照度	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策	-	-	-	-	-	-
4.1.1 化学汚染物質	-	-	-	-	-	-
4.2 換気	-	-	-	-	-	-
4.2.1 換気量	-	-	-	-	-	-
4.2.2 自然換気性能	-	-	-	-	-	-
4.2.3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理	-	-	-	-	-	-
4.3.1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	-
4.3.2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.6
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ	-	-	-	-	-	-
1.1.1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	-
1.1.2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	-
1.1.3 バリアフリー計画	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性	-	-	-	-	-	-
1.2.1 広さ感・景観	-	-	-	-	-	-
1.2.2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	-
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.0	0.50	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-	-
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	-
2.1.2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数	-	2.8	0.30	-	-	-
2.2.1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床: コンクリート_65年 壁: せっこうボード_耐用年数_20年 天井: なし	5.0	0.10	-	-	-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性	-	3.4	0.20	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4.4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	ネットワーク機器用に無停電装置が設備されている。	4.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率] <0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
床荷重:15000N/m ²							
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラックにより仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラックにより仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	—	1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
周辺環境との調和を図っている。							
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.5
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			—	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用(直接利用)			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.7	0.63	-	-	4.7
BEIm=0.31							
集合住宅以外の評価			4.7	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			1.6	0.25	-	-	1.6
集合住宅以外の評価			1.6	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	—	2.0	0.44	-	-	
4.2	運用管理体制	—	1.0	0.44	-	-	
4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	—	-	-	-	-	
4.4	コミッショニングの推進	—	3.0	0.11	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床: 長尺塩ビシート、断熱材	4.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS使用している。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	
化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が3つある。							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤	—	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
ホールライフカーボン排出率72%							
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器を使用していない。							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
2	振動	—	-	-	-	-	
3	悪臭	—	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」の項目の一部を満たす。また、「広告物照明の扱い」の項目の過半を満たす。	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

Marq 東名厚木

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	2.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	1.0	-	-	-	2.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
昼光率 0.0%
自然換気有効開口面積率 0.0%

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

壁長さ比率 6.4%
床荷重 15000 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

3 設備システムの高効率化

非住宅部分
集合住宅

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 83% 隣棟間隔指標Rw 1.36
地表面対策面積率 11.0% 屋根面対策面積率 11.0% 外壁面対策面積率 0.0%
見付面積Sb 3.662㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 174.15 m 基準高さHb 25.2 m
緑地 5.666㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡